新古賀病院群外科専門研修プログラム

１．専門研修プログラムの理念・使命・特徴

・領域専門制度の理念

新古賀病院群専門研修プログラムの理念は、外科専門研修プログラム整備基準に準拠します。外科専門研修プログラムに基づき、病院群が以下の外科専門医の育成を行うことを本制度の理念とする。

＊本プログラムが目指す外科専門医とは

医の倫理を体得し、一定の修練を経て、医師としての基本的な診療能力を有し、診断、手術適応判断、手術及び術前後の管理・処置、合併症対策など、一版外科医療に関する標準的な知識とスキルを修得し、プロフェッショナルとしての態度を身に付けた医師です。

外科専門医は規定の手術手技を経験し、一定の資格認定試験を経て認定されます。また、外科専門医はサブスペシャルティー領域（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科）や、それに準じた外科関連領域の専門医取得に必要な基盤となる共通の資格です。

専門医の維持と更新には、最新の知識・テクニック・スキルを継続して学習し、安全かつ信頼される医療を実施していることが必須条件となります（外科専門研修プログラム整備基準)。

・外科領域専門医の使命

外科領域専門医の使命は以下の２つです。

１）　標準的かつ包括的な外科医療を提供することにより、国民の健康を保持し、福祉に貢献すること。

２）　外科領域診療に関わる最新の知識・テクニック・スキルを修得し、実践できる能力を養いつつ、この領域の学問的発展に貢献すること。

・本プログラムの特徴

本プログラムでは、新古賀病院を基幹施設とし、久留米市内の中核病院を連携施設として病院群の設定を行いました。全ての病院が豊富な指導医を擁し、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺外科、内分泌外科領域を万遍なく履修することが可能です。

２．専門研修の目標

① 専門研修後の成果

専攻医は専門研修プログラムにより、以下の６項目を備えた外科専門医となる。

（１）外科領域のあらゆる分野の知識とスキルを修得する。

（２）外科領域の臨床的判断と問題解決を主体的に行うことができる。

（３）診断から手術を含めた治療戦略の策定、術後管理、合併症対策まですべての外科診療に関するマネージメントができる。

（４）医の倫理に配慮し、外科診療を行う上での適切な態度と習慣を身に付ける

（５）外科学の進歩に合わせた生涯学習を行う為の方法を修得している。

（６）外科学の進歩に寄与する研究を実践するための基盤を取得している。

② 到達すべき目標

（１）専門知識

外科診療に必要な基礎的知識・病態を習熟し、臨床応用できることを目指します。具体的な到達目標は、専攻医研修マニュアル（到達目標１：専門知識）を参照ください。

（２）専門技能

外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、臨床応用できることを目指します。具体的な到達目標は、専攻医研修マニュアル（到達目標２：専門技能）を参照ください。

（３）学問的姿勢

外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し、実践できることを目指します。このために、専攻医は、カンファレンスやその他の学術集会に出席し、積極的に討論に参加することが求められます。また、学術集会や学術出版物に症例報告や臨床研究の成果を発表すると同時に、これらに必要な資料の収集や文献検索を独自で行う能力を身に着けることが求められます。詳細については、専攻医研修マニュアル（到達目標３：学問的姿勢）を参照ください。

（４）医師としての倫理性、社会性など

外科診療を行う上で、医の倫理や医療安全に基づいたプロフェッショナルとしての適切な態度と習慣を身に着けることを目指します。これらを身に着けることは、外科専門研修期間にとどまるものではありませんが、全ての研修病院で継続的に学ぶことが求められます。詳細については、専攻医研修マニュアル（到達目標４：倫理性・社会性など）

を参照ください。

３．専門知識・技能の習得方法（専門研修の方法）

Ⅱに掲げた目標に到達するための専門研修は、１．臨床現場での学習、２、臨床現場を離れた学習、３、自己学習の３つの柱で構成されます。

専攻医は、専門研修施設群内の施設で、専門研修指導医のもとで研修を行います。全ての専門研修指導医は、専攻医が偏りなく到達（経験）目標を達成できるよう配慮します。具体的な到達（経験）目標は専攻医研修マニュアル（経験目標１、経験目標２）を参照ください。

４．地域医療に関する研修計画

施設群による研修

本研修プログラムでは、新古賀病院を基幹病院とし、地域の連携施設と、共に病院施設群を構成しています。専攻医は、これらの施設をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。しかし、当院だけの研修では、common diseases　の経験が不十分となる可能性もあることから、地域の連携病院で多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得することを目指します。詳細については、専攻医研修マニュアル（経験目標）を参照ください。

５．リサーチマインドの養成および学術活動に関する研修計画

本プログラムでは、外科学の進歩に合わせた生涯学習の基本を習得し、実践できることを目標とします。専攻医は、学問的姿勢について、医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽・自己学習することが求められます。

患者の日常的診療から浮かび上がるクリニカルクエスチョンを日々の学習により解決し、今日のエビデンスでは解決しえない問題は、臨床研究に自ら参加、もしくは企画する事で解決しようとする姿勢を身に着けることが必要です。

このために、専攻医は、カンファレンスやその他の学術集会に出席し、積極的に討論に参加することが求められます。さらに、得られた成果は、論文として発表し、公に広めるとともに批評を受ける姿勢を身につけることが必要です。また、これらに必要な資料の収集や文献検索を独自で行う能力を身につけることが求められます。

６．　外科専門研修について

１）　外科専門医は初期臨床研修修了後、3 年（以上）の専門研修で育成され

ます。

3 年間の専門研修期間中、基幹施設または連携施設で最低６カ月以上の研修を行います。

専門研修の 3 年間の１年目、2 年目、3 年目には、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度（コアコンピテンシー）と外科専門研修プログラム整備基準にもとづいた外科専門医に求められる知識・技術の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価して、基本から応用へ、さらに専門医としての実力をつけていくように配慮します。

２）　年次ごとの専門研修計画

専攻医の研修は、毎年の達成目標と達成度を評価しながら進められます。以下に年次ごとの研修内容・習得目標の目安を示します。なお、習得すべき専門知識や技能は専攻医研修マニュアルを参照ください。

① 専門研修１年目では、基本的診療能力および外科基本的知識と技能の習得を目標とします。専攻医は、定期的に開催されるカンファレンスや症例検討会、抄読会、院内主催のセミナーの参加、e-learning や書籍や論文などの通読、日本外科学会が用意しているビデオライブラリーなどを通して自らも専門知識・技能の習得を図ります。

② 2 年目では、基本的診療能力の向上に加えて、外科基本的知識・技能を実際の診断・治療へ応用する力量を養うことを目標とします。

③ 3 年目では、チーム医療において責任を持って診療にあたり、後進の指導にも参画し、リーダーシップを発揮して、外科の実践的知識・技能の習得により様々な外科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。

具体例

・専門研修１年目

基幹施設に所属し研修を行います。

症例数　　２００例以上（術者　30 例以上）

・専門研修 2 年目

連携施設群Ｂのうちいずれかに所属し研修します。

症例数　　２００例以上（術者　70 例以上）

・専門研修 3 年目）

原則として、基本基幹病院で研修を行います。

症例数　　１５０例以上（術者　60 例以上）

不足症例に関して、各領域をローテートします。

【新古賀病院群外科専門プログラムモデルコース】

例1

1年目	2年目		3年目
新古賀病院	聖マリア病院	古賀病院21	新古賀病院

例2

1年目	2年目		3年目
新古賀病院	古賀病院21	聖マリア病院	新古賀病院

７．専攻医の評価時期と方法

専門研修中の専攻医と専攻医と指導医の相互評価は施設群による研修とともに専門研修プログラムの根幹となるものです。専門研修の 1 年目、2 年目、3 年目のそれぞれに、コアコンピテンシーと外科専門医に求められる知識・技能の習得目標を設定し、その年度の終わりに達成度を評価します。このことにより基本から応用へ、さらに専門医として独立して実践できるまで着実に実力をつけていくように配慮しています。専門研修の評価については、多職種（看護師など）のメディカルスタッフの意見も取り入れて評価を行います。

８．専門研修プログラムの修了

3 年間の研修期間における年次ごとの評価表および 3 年間の実地経験目録にもとづいて、知識・技能・態度が専門試験を受けるのにふさわしいものであるかどうか、症例経験数が日本専門医機構の外科領域研修委員会が要求する内容を満たしているものであるかどうかを、専門医認定申請年（3 年目あるいはそれ以後）の 3 月末に研修プログラム統括責任者または研修連携施設担当者が専門研修プログラム管理委員会において評価し、研修プログラム統括責任者が修了の判定をします。

９．研修プログラムの施設群

新古賀病院と連携施設（２施設）により専門研修施設群を構成します。本専門研修施設群では 10 名の専門研修指導医が専攻医を指導します。

専門研修期間施設

病院名　　新古賀病院

所在地　　福岡県久留米市

研修内容　１．消化器外科、２．心臓血管外科、３．呼吸器外科、

５．乳腺外科　６．内分泌外科
統括責任者　　林　明宏

専門研修連携施設
病院名　　聖マリア病院
所在地　　福岡県久留米市
研修内容　１．消化器外科、２．心臓血管外科、３．呼吸器外科、
４．小児外科、５．乳腺外科、６．内分泌外科、
６．その他（救急含む）
連携施設担当者　　鷺　知光

病院名　　古賀病院２１
所在地　　福岡県久留米市
研修内容　１．消化器外科
連携施設担当者　　池添　清彦

１０．専攻医の受け入れ数について
本専門研修施設群の 3 年間のＮＣＤ登録数は、約 3,500 例で、専門研修指導医は７名です。「外科領域専門研修プログラム整備基準」にそって計算しますと 3 年間で最大 7 名となりますので、本年度の募集専攻医数は　２名となります。

１１．専門研修プログラム管理委員会について
基幹施設である新古賀病院には、専門研修プログラム管理委員会と、専門研修プログラム統括責任者を置きます。連携施設群には、専門研修プログラム連携施設担当者と専門研修委員会組織が置かれます。新古賀病院外科専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括責任者（委員長）、副委員長、事務局代表者、外科の 4 つの専門分野（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科）の研修指導責任者、および連携施設担当委員などで構成されます。研修プログラムの改善へ向けての会議には、専門医取得直後の若手医師代表が加わります。専門研修プログラム管理委員会は、専攻医および専門研修プログラム全般の管理と専門研修プログラムの継続的改良を行います。

１２．専攻医の就業環境について

専門研修期間施設および連携施設の外科責任者は、専攻医の労働環境改善に努めます。また、専門研修プログラム統括責任者または専門研修指導医は専攻医のメンタルヘルスに配慮します。

専攻医の勤務時間、当直、給与、休日は、労働基準法に準じて各専門研修期間施設、各専門研修連携施設の施設規定に従います。

１３．外科研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件

専攻医研修マニュアルⅧを参照してください。

１４．専門研修実績記録システム、マニュアル等について

研修実績および評価の記録

日本外科学会のホームページにある書式（専攻医研修マニュアル、研修目標達成度評価報告書、専攻医研修実績記録、専攻医指導評価記録）を用いて、専攻医は研修実績（ＮＣＤ登録）を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受けます。総括評価は、外科専門研修プログラム整備基準に沿って、少なくとも年１回行います。

新古賀病院にて、専攻医の研修履歴（研修施設、期間、担当した専門研修指導医）、研修実績、研修評価を保管します。さらに、専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保存します。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導者マニュアルを用います。

◎　専攻医研修マニュアル

別紙「専攻医研修マニュアル」参照

◎　指導者マニュアル

別紙「指導医マニュアル」参照

◎　専攻医研修実績記録フォーマット

「専攻医研修実績記録」に研修実績を記録し、手術症例はＮＣＤに登録します。

◎　指導医による指導とフィードバックの記録

「専攻医研修実績記録」に指導医による形成的評価を記録します。

１５．専攻医の採用と修了

採用方法

新古賀病院外科専門研修プログラム委員会は、毎年10月から説明会を行い、外科専攻医を募集します。本プログラムへの応募者は、11月30日までに新古賀病院　研修プログラム責任者宛てに所定の形式の「新古賀病院外科専門研修プログラム応募申請書」および履歴書を提出してください。申請書は、（１）新古賀病院 website(http://www.tenjinkai.or.jp）よりダウンロード、（２）電話にて問い合わせ（ＴＥＬ　０９４２－３８－２２２２　内線３３５２　総務課)、（３）e-mail にて問い合わせ（email：info@tenjinkai.or.jp）のいずれの方法でも入手できます。原則として12月中に試験を行い、採否を決定して本人に文書で通知します。応募者および試験結果については翌年1月開催の新古賀病院外科専門研修プログラム管理委員会で報告します。

研修開始届

研修を開始した専攻医は、各年度の5月31日までに以下の専攻医氏名報告書を日本外科学会事務局および外科研修委員会へ提出します。

・専攻医の氏名と医籍登録番号、日本外科学会会員番号、専攻医の卒業年度
・専攻医の履歴書
・専攻医の初期研修修了証

修了要件

専攻医研修マニュアル参照